



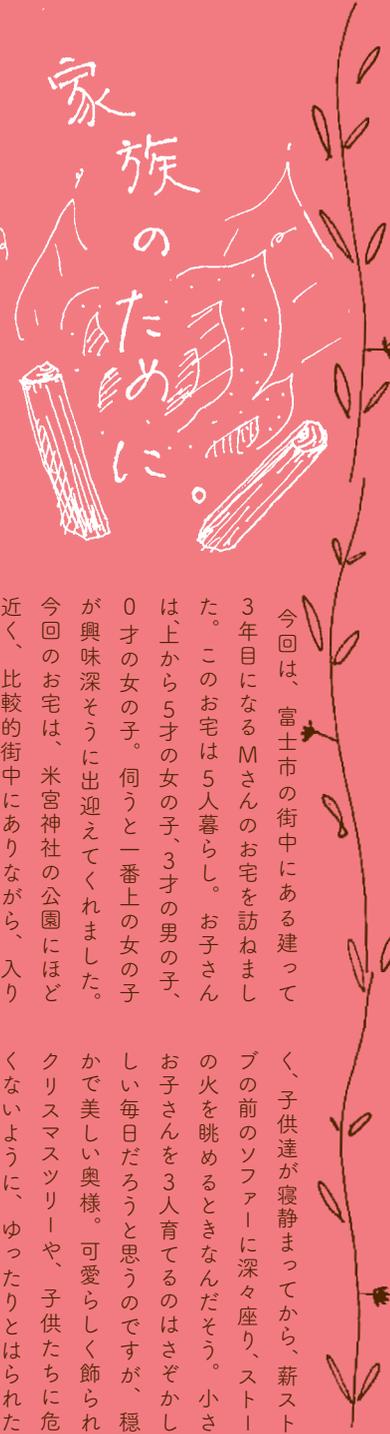


富士市

LOHASなOBS



まき  
薪ストーブは、家族



族の  
ために。

今回は、富士市の街中にある建って3年目になるMさんのお宅を訪ねました。このお宅は5人暮らし。お子さんは上から5才の女の子、3才の男の子、0才の女の子。何うと一番上の女の子が興味深そうに迎えてくれました。今回のお宅は、米宮神社の公園にほど近く、比較的街中でありながら、入り口近くには大量の薪が積んであり、木の小屋のある風景に、なんともワクワクします。

家の中に入ると、開放的なリビングの真ん中に薪ストーブがあり、火をくべる準備をして下さっていました。寒くなると薪ストーブが活躍するのだそう。この日は比較的暖かな日だったので、この日を見せてもらいました。旦那さま曰く、薪ストーブに火を入れるのはけっこう簡単！とのこと。よく乾いた細い薪を小さなテントのように積んだら、真ん中に、公園で拾った松ぼっくりを数個置いて、松ぼっくりに火をつけます。そうすると、松ぼっくりに含まれる油分で、ちよつとよく火がつき、薪に火が移るんだそうです。さあ火がつかました。旦那さまは、休日の朝、早く起きて薪を割りに行くのが楽しみだそうで、車で少しドライブしたところに薪を乾かすためのとっておきの場所を用意しているのだとか。早朝から薪割り。それは気持ち良さそうですね!!

奥様のお楽しみ時間は、夜遅

富士山湧き水コレクター 兼松明里さんによる紹介したい!富士山の湧水のこと。

林製紙『トイレトペーパー』

林製紙は、富士市比奈にある製紙会社で、主にトイレトペーパーなど紙製品の製造・加工を行っている。ユニークなトイレトペーパーを多数作っており、富士山に登りたくなる情報が印刷されている世界遺産「富士山登ろう!」や、トイレに入ることが楽しくなるようなホラー小説が印刷されている鈴木光司「ドロップ」、買うとケニアの植林活動「グリーンベルト」に一部寄付される「MOTTAINAI」など、アイデアの詰まったトイレトペーパーの数々。ネットからも購入ができ、大人気で全国から注文が集まっている。



く、子供達が寝静まってから、薪ストーブの前のソファに深々座り、ストーブの火を眺めるときなんだそう。小さなお子さんを3人育てるのはさぞかし忙しい毎日だろうと思うのですが、穏やかで美しい奥様。可愛らしく飾られたクリスマスツリーや、子供たちに危なくないように、ゆつたりとはられた薪ストーブの柵など、家族を思う配慮があちらこちらに感じられ、とても居心地良く過ごしました。きっともう少し子供たちが大きくなったら、アウトドアが好きで旦那様に連れられて、キャンプをしに行ったり、あちこち外の自然を感じに出かけ、またこの家に帰ってきては、暖炉の火で、家族みんな温まるのでしょ。

薪ストーブの奥に水を利用し、風呂は江戸時代から「新すき」が行われ、明治には



日本酒好きロハスの望月さん。今回は、どんな日本酒ですか？  
来福酒造 純米 宝船  
茨城県  
タンポポの花酵母を使ったお酒です。フルーティーで甘みを感じますが、瑞々しい酸味も感じます。こつてり醤油味の炊き込みご飯ともピッタリ。うちでは、「野菜菜」をアテにして呑んで美味しかったです。お目度く、七福神のイラストラベルです。



「みる」新すき情報。700円以下



新すきが行われ、明治には

新すきが行われ、明治には

# LOHAS 寺崎 story

## 社長の本棚

こゝを讀んだら社長になった。



今回紹介した  
 い本は、東京五  
 輪の国立競  
 技場の設計を  
 された隈研吾  
 さんの「境界」  
 世界を変える  
 日本の空間操  
 作術、という本です。なにやら  
 たいそうなタイトルです。で  
 も実際、世界の近代建築や社  
 会での、中と外、人の社会等  
 の関係性のありかたに、日  
 本が培ってきた境界の文化が  
 大きな影響を与えているとい  
 うことに驚きました。窓、格  
 子、垣根、塀、縁側、軒・屋  
 根といった、内と外の曖昧な  
 境界。暖簾、簾、障子、屏風  
 といった、柔らかな境界。床  
 (とこ)、(こゝ)、神棚、躰口(にじり  
 ぐち)、沓脱石(くつぬぎい

し)といった、聖と俗、ハレ  
 とケの境界。関守石、石碑と  
 いった、「見立て」の境界。橋、  
 坪庭、借景といった、風景の  
 中の境界。等が写真の事例と  
 ともに紹介されています。何  
 と繊細で多様な文化なのだろ  
 うかと、一つ一つ見ながら新  
 鮮な感動を覚えました。欧米  
 でのありかたは、内と外をがっ  
 しりとした壁で仕切り、機能  
 としての窓と扉で限られたつ  
 ながりを持つ。整えられた装  
 飾が施され統一感が美しい景  
 観を作っていたりします。確  
 かに美しいのですが、画一的と  
 いうか単調な気もします。そ  
 れはゴシック様式だとか、眺  
 めたり見せたりする場合の表  
 現としての、装飾的な要素が  
 強いからだと思います。一方  
 で、日本の境界は、人と人や、

中と外、家庭と社会などを、  
 欧米のようななかつちりとした  
 形でなく、実に多様で繊細な  
 やりかたで作り上げていてこ  
 とに気づかされました。そこ  
 にあるのが、物理的には無い  
 けどあるように感じさせる等  
 の精神性を併いながら、それ  
 ぞれの関係性を絶妙に調整し  
 て作り上げている日本独自の  
 奥ゆかしい文化です。以前は、  
 日本人は獨創性が無く、欧米  
 の文化や技術を真似て、器用  
 に工夫して取り入れていた時期  
 がありましたが、ところが、そ  
 うではないとこの本で気づか  
 せてもらいました。きっかけ  
 は欧米や中国などから伝わっ  
 て入って来る。一時的には衝  
 撃を受けるけど、それを多様  
 に受け入れて、独自で繊細な



やり方で関係性を調整しなが  
 ら、日本独自の文化を作り上  
 げていたのだと。しかも、それが  
 お寺などの公共建築だけでなく、  
 普通の家の暮らしの中に  
 宿っていたのです。これは日本  
 人が受け継いできたかけがえ  
 のない財産だと思います。流  
 行やスタイルの中でこうした  
 ものが失われるのでは無く、  
 今の暮らしの中に取り入れ  
 て、後々の世代に受け継いで  
 いけるようにしていきたいで  
 す。この本は moku rie gallery  
 でご覧になれます。ぜひ見に  
 来てくださいな。

LOHAS Letter vol.6 2019年1月号

発行/空間工房 LOHAS (ロハス) 住むほどに健康に。  
 静岡県富士市荒田島町 8-16 未来につながる家づくり。  
 tel▷ 0120-708-728 [www.kobo-lohas.jp](http://www.kobo-lohas.jp)  
 mail▷ lohas@fork.ocn.ne.jp R+house FUJI  
 編集 & 制作: 三井佳奈 http://rhouse-fuji.com



ロハスの新しい取り組み「R+house」の勉強会チラシが裏面にのっています。

いいものつなぐ  
**moku rie**  
 Gallery モクリエ

Gallery OPEN  
 10:00 ~ 16:00 (不定休です。instaかFBをご確認ください。)

ロハスの事務所の一階にあるギャラリーです。  
 セルフでコーヒーが飲めたり、本が読めたり。  
 うたた寝もできちゃう。ワークショップもしてい  
 ますので、リラックスしにお立ち寄りくださいませ。

Face book  
 モクリエの勉強会  
 情報交換会  
 ワークショップ  
 講座など  
 開催予定  
 単にここ  
 単にここ  
 単にここ



駐車場は、ロハスの建  
 物の東側(ザ・ビッグ側)  
 です。西側には停めな  
 いでね!



ご予約・お問い合わせは、インスタ:  
 @mokuriegallery  
 090-3562-1503 (三井 or 坂本まで)  
 lohas.sakamoto@ezweb.ne.jp

〒417-0043 静岡県富士市荒田町 8-16  
 TEL.0545-57-5571 FAX.0545-57-5576